

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	銚子市立飯沼小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	22
児童数	67	58	43	73	67	66	16	390	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上をめざした算数科指導の改善と創造  
——単元の特性に応じた少人数指導のあり方——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数における少人数指導，特に単元に応じた習熟度別学習。（他教科に比べ，個人差が大きく，苦手意識を持つ児童も多いため）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 確かな学力の向上をめざした算数科指導の改善と創造</li> <li>○ 仮説             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導体制・指導方法を工夫・改善し，きめ細かな指導・支援をしていけば，児童の確かな学力は向上するであろう。</li> <li>・ 評価規準を作成し，評価方法を見直して，児童の学力の伸びを多面的にとらえていけば，児童の関心・意欲が増し，確かな学力は向上するであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究内容・方法 理論研修，少人数指導を取り入れた授業研究，先進校参観。</li> </ul>
----------------	---

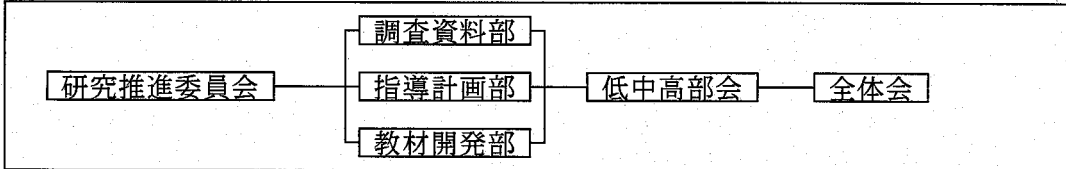
平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 単元の特性に応じた少人数指導のあり方</li> <li>○ 仮説             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個や単元の特性に応じた少人数指導・TTを工夫・改善し，きめ細かな指導・支援をしていけば，児童の確かな学力は向上するであろう。</li> <li>・ 発展的・補充的な学習教材を開発し，個に応じた指導・支援をしていけば個々の学習意欲が高まり確かな学力が向上するであろう。</li> <li>・ 少人数指導の中で多面的な評価をしていけば，指導体制が定まり習熟度別学習が有効に機能するであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究の内容・方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理論研修，単元の特性に応じた少人数指導パターンの開発，発展的な内容と補充的な内容の工夫に重点を置いた少人数指導の授業研究を行う。</li> <li>・ 研究経過を公開するための保護者・教員に向けた中間報告会</li> </ul> </li> <li>* 少人数指導を有効に機能させるには，指導パターンの多様化が必要であるとの考えから，テーマを「単元の特性に応じた少人数指導」に変更した。</li> </ul>
----------------	--

平成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 少人数指導における評価のあり方</li> </ul>
----	---

16年度

- 仮説
  - ・ 個に応じた評価（個人内評価と絶対評価）をバランスよく取り入れ、指導に生かしていけば、学習に対する意欲が高まり確かな学力が向上するであろう。
- 研究の内容・方法
  - ： 授業研究による指導・評価方法の改善，公開授業研究会

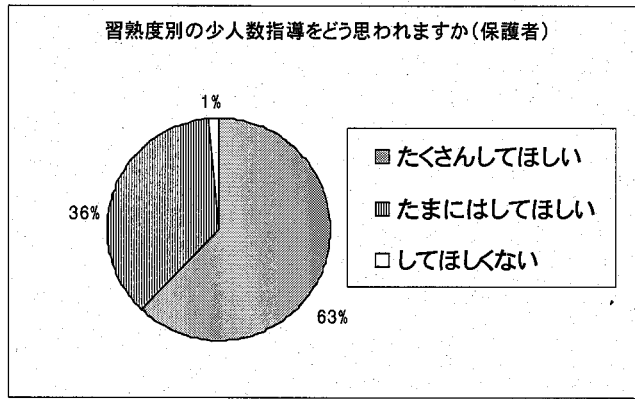
(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 仮説1（単元の特性に応じた少人数指導）
  - ・ 単元の特性を考えた少人数指導では、目標から素材や学習活動を考え、児童の実態にあったコースを設定した結果、きめ細かな指導が充実し、児童の意欲が単元最後まで継続した。
  - ・ 系統性が強い単元では、単元前までの習熟に応じてコースを設定することで個の実態に応じたきめ細かな指導が可能になり、習熟の差が出ることを最小限におさえることができた。
  - ・ 保護者へ授業を公開し、アンケートをとった結果、少人数指導（習熟度別学習）を望む回答が多く、単元の特性に応じた習熟度別学習を行う環境が整った。



- ・ 平成14年2月と平成15年2月に実施した千葉県標準学力検査の結果を比較すると、少人数指導を始めた平成15年2月実施の方がよい結果になっている。また、本校独自の到達度調査でも同様の結果となっている。これは少人数指導の成果が表れていると考えられる。

千葉県標準学力検査の結果(全校平均)

	観 点			領 域			
	知識理解表現処理	思考	数と計算	量と測定	図形	数量関係	
H14.2	80	80	65	75	77	72	68
H15.2	85	83	68	81	74	81	69

単位は%

本校独自の到達度調査(全校平均)

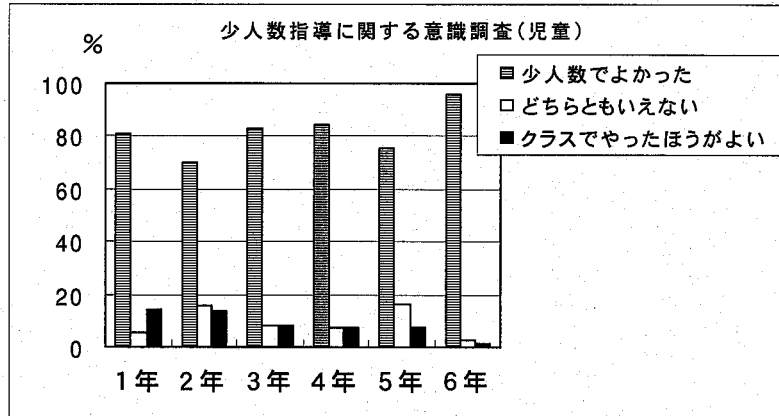
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
H14.7	72	77	70	67
H15.2	77	78	72	78

単位は%

- ・ 児童の少人数指導（習熟度別学習）アンケートでは、「少人数指導の方がよい」という回答が「クラスでやった方がよい」という答えをはるかに上回り、学習に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。また、算数を苦手とする児童も減ってきた。

○ 仮説2（発展・補充的内容）

- ・ 発展的内容は単元の終末段階、補充的内容は毎時間にいれると学習内容の定着が増し、意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。
- ・ 発展的内容は、自分たちの活動から問題作りをしていくと問題の幅が広がり、多様な算数的活動が見られるようになってきた。



算数に対する意識調査(全校児童)

	H14.7	H15.2	H16.2
好き	84.2	81.2	83.5
得意	61.9	60.0	63.3
がんばっている	96.6	97.9	97.4

単位は%

何番目に楽しい授業ですか(全校児童)

	H14.7	H15.3	H16.3
1番	16.5	13.3	14.4
2番	20.0	20.4	26.3
3番	16.5	21.8	22.1
4番	13.6	18.3	17.8
5番以下	33.3	26.2	19.5

単位%

○ 仮説3（少人数指導での評価）

- ・ 授業後の自己評価がコースを変える場合の目安となる。また、教師にとっては次の授業の組み立てにもつながっていく。
- ・ 単元はじめの実態調査の評価が重要であり、コース分けの場面では児童によく説明することにより、自己評価の力が育つようになった。

2. 今後の課題

- ・ 同じ単元でも児童の実態によって活動の幅が違ってくる。コース分けによる人数のばらつきをなくす工夫をしていかなければならない。
- ・ 基礎・基本の評価規準が明確に分かる授業の工夫と、評価の積み重ねの方法を検討する必要がある。
- ・ 自己評価の場・方法・生かし方をさらに考え、指導に生かしていかなければならない。

IV 学力等把握のための学校としての取組

○ 定期的な学力・意識調査の実施（年1回 2月中旬実施）

- ・ 目的 少人数指導での成果と課題を明確にするため。
- ・ 実施内容 算数の全単元について自作問題で行う。
- ・ 時期 全単元終了後（2月下旬～3月上旬）。
- ・ 活用法 学年ごとに到達度を算出し、次年度の指導の参考にする。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- |   |   |
|---|---|
| ○ | 中間報告会の開催  |
| ・ | 日時 平成15年10月21日(火)                                 |
| ・ | 場所 銚子市立飯沼小学校                                      |
| ・ | 対象 近隣小中学校の教員, 本校保護者                               |
| ・ | 目的 少人数指導方法の普及及び保護者への習熟度別学習の説明。                    |
| ○ | 成果普及の実践   |
| ・ | HP上で研究成果と課題の公開                                    |
| ・ | 研究の詳細(年間指導計画や学習指導案, 授業の動画等)についてのCDを作成し中間報告会で配布した。 |
| ○ | 平成16年度公開研究会の予定                                    |
| ・ | 日時 平成16年10月22日(金)                                 |
| ・ | 場所 銚子市立飯沼小学校                                      |
| ・ | 対象 近隣小中学校の教員                                      |
| ・ | 目的 3年間の研究成果と課題を発表し, 地域への普及を図る。                    |

◇ 次の項目ごとに, 該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T. Tによる指導  
 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無